

フルーツアレルギーの辛さ

越谷市立荻島小学校 六年 吉村 春勢

「早く食べられるようになれないかなあ。」それが今の僕の果物への思いです。

僕は、毎年アレルギー検査を受けています。休みの日に病院へ行き、血液を採取してアレルギーがあるか、またはアレルギーが増えていないかを確認するのです。四年生になるまでの僕は、アレルギーがえび、そば、ピーナッツだけでした。

「検査終わりましたー。こちらに入ってください。」看護師さんからそう言われて、診察室へ行きました。そして、院長さんから、「新たにフルーツのほとんどがアレルギーになってしまいました。」そう言われました。ものすごくショックでした。まさかフルーツのほとんどがアレルギーなんて思ってもいなかったからです。それを聞いてから、学校の給食でフルーツが出ると、これまで以上に「食べたいなあ。」と思うようになりました。みんながおいしいそうに食べているのを見ると、ますますうらやましくなりました。

「アレルギーの人でも、食べられるフルーツ、食べ物ができてほしい。」僕は最近、強くそう思っています。フルーツのおいしさを知っているからこそ、品種改良などをして、どうにか食べられるようになりたいです。僕は、フルーツの味や、食べごたえを、ちゃんと覚えていきます。アレルギーになった今でも、記憶に残っています。

僕の将来の夢は、天文学者です。宇宙飛行士さんの中で、もし、フルーツアレルギーの人がいたら、それでも対応できる、フルーツ宇宙食があったら良いと思っています。そうしたら、アレルギーの人でも、フルーツのおいしさ、そしてありがたさを味わってほしいです。そして、僕はいつまでも、このアレルギーというものに打ち勝って、食べられるようになると思っています。そして、またおいしく味わいたいです。